

2024年3月16日配布

第346回山口西田読書会（=2024年3月9日開催分）の Protokol

唐露記

### 1、テキスト

「場所」「五」の第4段落 287頁7行目から 288頁5行目まで。

### 2、キーセンテンス

「変ずるものが相反するものに移り行くということは述語として限定することのできない何物かがあり、之によって述語となるものが限定せられると共に、その物は又すべてに就いて述語となることを意味する。主語的にいえばそれは個体というべきものであり、述語的にいえばそれは最後の種というべきもののものであろう。」(287頁15行目～288頁3行目)

### 3、問い

働くもの・変ずるものを判断するには、主語面において「個体」、述語面において「個体」について述語となる「最後の種」を考える必要がある。西田はその両面をも「述語として限定することのできない何物」即ち「一般概念」が「自己自身を限定する」ことと考えている。また、働くものを判断するには「述語面が主語面を包むものでなければならない」とされる。「一般概念」の述語面の自己限定が如何にその主語面の自己限定を包むか？  
(200字)